

第2期

ロジスティクス環境会議

Conference on Green Logistics in Japan

参加募集のご案内



【グリーンフラッグに託す思い】

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む全ての関係者の旗印となり、
本会議を通じたコラボレーションによって、循環型社会の形成に寄与したい思いを表しています。



<http://www.logistics.or.jp/green/>

 社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

「第2期ロジスティクス環境会議」開催にあたって

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

会長 三村 明夫

(新日本製鐵株式会社 代表取締役社長)



私達は、健全な地球環境と社会環境を最も重要な財産として次世代に継承していく為に、環境との調和を最優先に考えた、循環型社会を構築しなければなりません。

企業の経済活動において、環境経営の重要性は一層増しており、設計・開発・調達・製造・販売・物流の仕組みを横断的に見直すことが必要です。製品・サービスの源流段階から環境負荷の低減を考慮すると共に、使用後のリユース・リサイクルを促進する為に、サプライチェーンとリバースチェーンのプロセスを一体化するロジスティクスの構築が不可欠です。

このような状況のもと、当協会では、循環型社会を実現するロジスティクスの構築を目的に、その指針となるグランドデザインを描き、2003年11月に「ロジスティクス環境会議」を設立し、2006年3月まで第1期活動を行ってきました。

第1期では、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす為の基盤整備として、活動支援マニュアル等のツールを作成し、改正省エネルギー法の施行にあたっては、関係行政機関に対して提言活動を行いました。更に、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題と認識し、積極的に環境負荷低減活動に取り組む為に、「ロジスティクス環境宣言」を採択致しました。

第2期活動では、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体と連携を図り、「ロジスティクス環境宣言」の実現を目指し、第1期活動の成果であるマニュアル等のツールを活用しながら、ロジスティクス領域における環境負荷低減活動を積極的に行います。更に、改正省エネルギー法・地球温暖化対策推進法等の環境に関わる法律にも積極的に関与し、物流分野における二酸化炭素等の環境負荷低減活動を推進します。

是非、第2期ロジスティクス環境会議に積極的なご参画を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

ロジスティクス環境会議では

ロジスティクス領域における環境負荷低減活動の各種事例の情報収集と人的ネットワークを形成することができます。

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、発荷主、着荷主、物流事業者間で解決策を検討します。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。

改正省エネルギー法等の最新の行政施策動向を把握できることにより、自社の早期対策を行うことが可能になります。

概要

名称：ロジスティクス環境会議(第2期)

Conference on Green Logistics in Japan(CGL in Japan)

目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築

～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

期間：2006年8月～2008年3月

参加対象：日本ロジスティクスシステム協会(JILS)の会員

ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を実践していきたいと考えている、製造業、流通業、物流事業者、情報サービス業、調査・研究機関、自治体等の方々。

方針：循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、産官学、発荷主・着荷主・物流事業者間の連携のもと、第1期の活動成果を活用し、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進します。さらに、改正省エネルギー法、地球温暖化対策推進法等にも対応し、物流分野における二酸化炭素等の環境負荷低減活動を積極的に推進します。

目標：循環型社会の実現に向けて、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、研究会ならびに委員会等の活動を通じて、次の「ロジスティクス環境宣言」の実現を目指します。

「ロジスティクス環境宣言」

自らの環境負荷を低減する

メンバー企業自らの活動によって発生する環境負荷低減目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

「ロジスティクス環境宣言」は、2006年3月15日に開催された、第1期ロジスティクス環境会議の第4回本会議(議長:張 富士夫氏 / トヨタ自動車㈱ 取締役副会長 3月15日時点)にて、採択されました。

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン：

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを(人類生存の大前提である)最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILSは21世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。



- ・ロジスティクス環境会議(2006年8月～2008年3月)は、情報交換を中心とした「研究会」と提言書等の成果物を自らが主体的に作成する「委員会」によって構成されます。
- ・研究会、委員会の具体的な検討テーマ等につきましては、参加メンバーの方々のご意見、ご要望によって決定させていただきます。

1) グリーン物流研究会

環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバーやゲストスピーカからグリーン物流の各種施策の先進事例の情報収集、関連する施設の現場見学等を通じて、実践的な改善施策を研究します。

研究テーマ等の例(具体的なテーマ、施設見学先はメンバーで検討します)

輸配送のモーダルシフト、共同物流等の先進企業事例の研究

包装資材のリターナブル化等の先進企業事例の研究

改正省エネルギー法に対応したトンキロ把握、計画書、報告書の作成方法や先進企業事例の研究

標準的な算定方法(燃料法・燃費法・改良トンキロ法)によるCO₂排出量把握など含む

施設見学会(リサイクル施設、モーダルシフトの施設の見学など)の実施

講習会(行政施策、各種先進企業事例等)の実施

2) 委員会

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主、着荷主、物流事業者間で協議すべき問題点、課題を整理し、解決の方向性や施策を検討します。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。

(1) グリーンサプライチェーン推進委員会(仮称)

製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、発荷主、着荷主、物流事業者間で問題、課題を共有し、解決の方向性、施策を検討します。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。

主な検討テーマ(課題)の例

源流管理の推進

メーカーが製品の企画、設計段階から物流の環境負荷を考慮した、円滑なリデュース、リユース、リサイクルを推進する製品サイズ、荷姿等のあり方等の研究

環境負荷とコストを低減する物流サービスのあり方

環境負荷と経済効率を考慮した物流に係わる取引条件(ロット、配送回数等)のあり方等の研究

その他

成果イメージ

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けた環境負荷低減活動の事例集、推進ガイドライン など

(2) CO₂削減推進委員会(仮称)

各企業のCO₂削減活動を推進するため、改正省エネルギー法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業のパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討します。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。

主な検討テーマ(課題)の例

荷主企業と物流企業の連携による継続的な改善活動の推進

荷主企業と物流企業のパートナーシップのあり方、CO₂の算定、削減活動に必要なデータの収集、交換と改善施策等の研究

改正省エネルギー法等の関連法制度への対応

荷主企業、物流企業において、運用段階で明らかになった課題の整理、対応策等の研究

その他

成果イメージ

荷主企業と物流事業者によるCO₂削減活動推進マニュアル、関連法制度への提言 など

3) ロジスティクス領域における環境に関する情報提供

全メンバーを対象に、以下のような情報提供を行います。

シンポジウムや講演会等のイベントの開催(年間1~2回開催予定)

- ・改正省エネルギー法等の行政施策動向の情報提供
- ・企業の環境負荷低減活動の先進事例等の情報提供
- ・その他

媒体を通じた情報提供

- ・ジャーナル(冊子)の発行(年間2回):行政施策動向、環境会議の活動内容の情報提供
- ・メールマガジンの配信(毎月2回):行政施策動向、各種イベント案内等、即時的な情報提供

運営体制

1) ロジスティクス環境会議(本会議)

2006年度は8月、2007年3月、2007年度は2008年3月に開催予定

役割

ロジスティクス環境会議全体(本会議、研究会、委員会等)の基本方針を定めます。

合意事項の普及啓発と関係者に対する提言を行います。

本会議には、企業メンバーの他、以下の方々にもご参加いただきます。

- ・特別メンバー：ロジスティクスおよび環境問題に取り組む学識経験者・関連団体・消費者団体等
- ・オブザーバー：経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省(予定)

2) 研究会、委員会

それぞれ、年間6~8回開催予定

役割

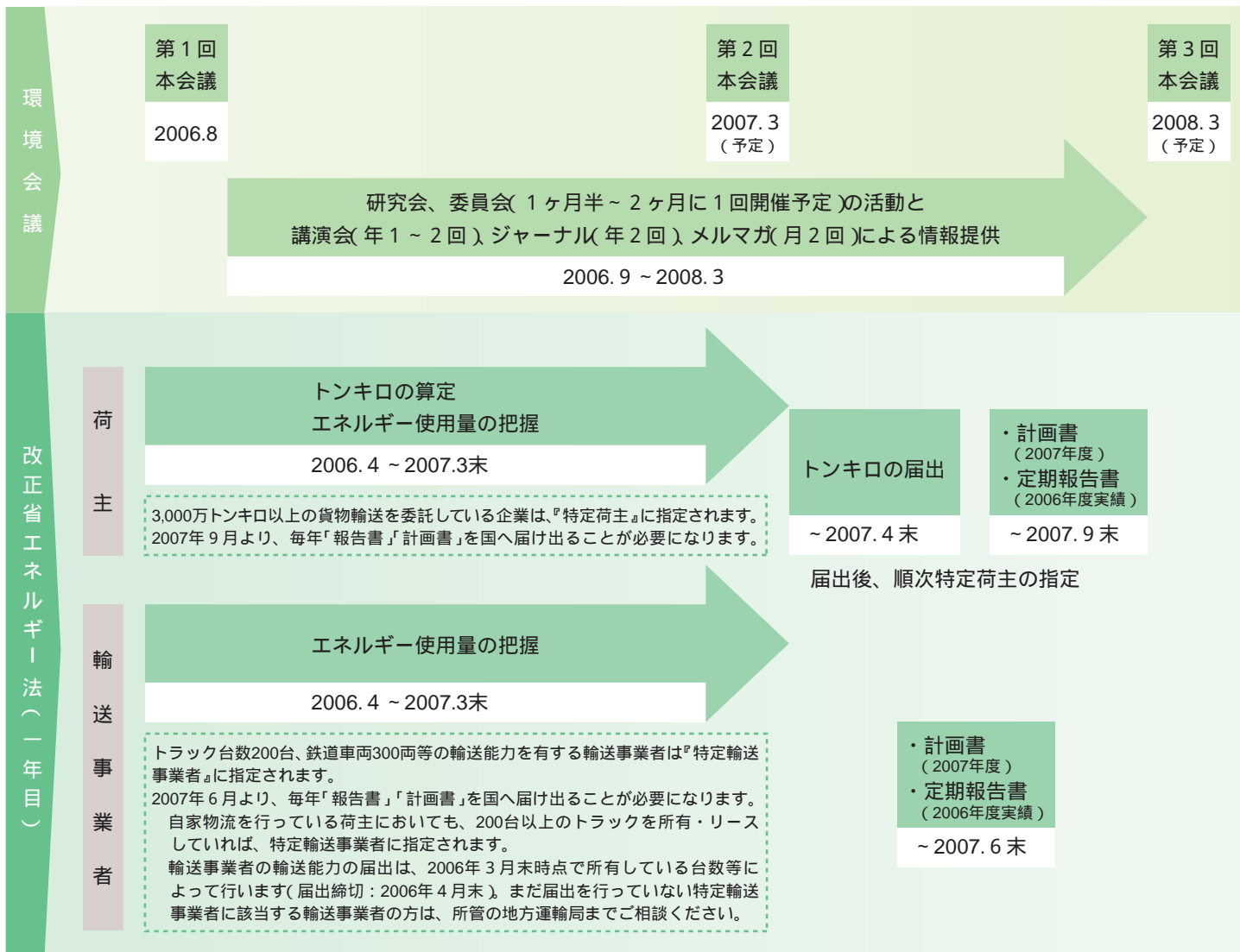
研究会：環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバーやゲストスピーカからグリーン物流の各種施策の先進事例の情報収集、関連する施設の現場見学等を通じて、実践的な改善施策を研究します。

委員会：循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主、着荷主、物流事業者間で協議すべき問題点、課題を整理し、解決の方向性や施策を検討します。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。



第1期ロジスティクス環境会議 本会議

活動のスケジュール



申込規定

参加料金 : 1期2年間(2006年8月~2008年3月)210,000円 / 1社(税込)

参加料は、初年度(105,000円 / 1社)、次年度(105,000円 / 1社)に分けてご請求いたします。

参加募集企業・自治体 : 120社(予定)

参加申込方法 : 参加申込書及び参加登録票に必要事項をご記入のうえ、FAXにてお申込ください。会議のご案内と請求書を後日お送りいたします。

参加申込期限 : 2006年7月28日(金)

【ご注意】

- ・ご登録は、原則1期2年(2008年3月迄)といたします。
- ・年度途中の参加辞退につきましては、参加料の払い戻しはいたしません。
- ・参加料には各会合(本会議と研究会、委員会等)の運営費用等が含まれます。

申込後のスケジュール

お申込

アンケート調査

- ・取組みテーマ等の募集

2006年8月2日(水) 第1回本会議

時間 : 14:00 ~ 16:00
会場 : 東京都内会場

2006年9月~ 第1回研究会、委員会

- ・活動計画の策定

問い合わせ先

申込 FAX : 03-5484-4031

第2期ロジスティクス環境会議 参加申込書

| | | |
|---------|--------|--------------------------------------|
| 会社・事業所名 | (フリガナ) | <input type="checkbox"/> JILS 会員外 |
|---------|--------|--------------------------------------|

| | |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 業 種 | 【 】 ※裏面業種一覧をご参照の上、貴社に該当する主要な業種の番号をご記入ください |
|-----|--------------------------------------------------------------|

代表登録者 (本会議メンバー)

| | | |
|-----|--------|--------|
| 氏 名 | (フリガナ) | 所属・役職: |
|-----|--------|--------|

| | | |
|-------|----------------|------------------|
| 所 在 地 | 〒 — | TEL () |
| | | FAX () |

| | |
|---------|---|
| メールアドレス | @ |
|---------|---|

代表登録者への連絡先 (ご本人以外の場合ご記入ください)

| | | |
|-----|--------|--------|
| 氏 名 | (フリガナ) | 所属・役職: |
|-----|--------|--------|

| | | |
|-------|----------------|------------------|
| 所 在 地 | 〒 — | TEL () |
| | | FAX () |

| | |
|---------|---|
| メールアドレス | @ |
|---------|---|

※ご登録される研究会・委員会の に をお付けください (複数登録可)

- グリーン物流研究会 (仮称)
- グリーンサプライチェーン推進委員会 (仮称)
- CO2削減推進委員会 (仮称)

第2期ロジスティクス環境会議
参加登録票にご記入ください。

研究会・委員会には登録しない

※以下のような情報提供を行います。

- ・ シンポジウムや講演会等のイベントの開催
- ・ ジャーナル (冊子) やメールマガジンの配信
- ・ その他

※ ご登録について

- ・ 代表登録者 (本会議メンバー) は、必ずご記入ください。
- ・ ロジスティクス環境会議は当協会会員の方が参加対象となります。非会員の方は、是非この機会に当協会にご入会ください。

◆参加申込・内容の問合せ先◆

社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境推進センター 遠藤・小川・佐藤
〒105-0014 東京都港区芝 2-28-8 芝2丁目ビル
Tel:03-5484-4021 Fax:03-5484-4031 e-mail:cgl@logistics.or.jp

申込 FAX : 03-5484-4031

※ 研究会、委員会に参加をご希望の方は、下記に必要事項をご記入ください。

| 第2期ロジスティクス環境会議 参加登録票 | | | |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|
| 会社・事業所名 | (フリガナ) | | |
| グリーン物流研究会 (仮称) ※希望するテーマを下記欄にチェックしてください。 | | | |
| 氏名 | (フリガナ) | 所属・役職: | |
| 所在地 | 〒 _____ | TEL | () |
| | | FAX | () |
| メールアドレス | @ | | |
| ※希望テーマ | <input type="checkbox"/> 1. 輸配送のモーダルシフト、共同物流等の先進企業事例の研究 <input type="checkbox"/> 2. 包装資材のリターナブル化等の先進企業事例の研究 <input type="checkbox"/> 3. 改正省エネ法に対応したトンキロ把握、計画書、報告書の作成方法や先進事例の研究 ※標準的な算定方法 (燃料法・燃費法・改良トンキロ法) によるCO2排出量把握など含む <input type="checkbox"/> 4. 施設見学会 (リサイクル施設、モーダルシフトの施設の見学など) の実施 <input type="checkbox"/> 5. その他 具体的に: _____ | | |
| グリーンサプライチェーン推進委員会 (仮称) | | | |
| 氏名 | (フリガナ) | 所属・役職: | |
| 所在地 | 〒 _____ | TEL | () |
| | | FAX | () |
| メールアドレス | @ | | |
| CO2削減推進委員会 (仮称) | | | |
| 氏名 | (フリガナ) | 所属・役職: | |
| 所在地 | 〒 _____ | TEL | () |
| | | FAX | () |
| メールアドレス | @ | | |

個人情報のお取扱について

(社)日本ロジスティクスシステム協会では個人情報の保護に努めております。
詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.pdf>) をご覧ください。

業 種 分 類 表

※表面「業種」欄に番号をご記入ください。

■製造業

| 番号 | 分類 | |
|----|-----------|----------------|
| 1 | 食品 | 食品 |
| 2 | 繊維・衣服 | 繊維・衣服 |
| 3 | 紙・パルプ | 紙・パルプ |
| 4 | 化学 | 化学 |
| | | 油脂・洗剤 |
| | | 医薬品 |
| | | 塗料・インキ |
| | | 化粧品 |
| | | その他の化学 |
| 5 | 石油・石炭製品 | 石油・石炭製品 |
| 6 | ゴム・皮革製品 | ゴム・皮革製品 |
| 7 | ガラス・土石・窯業 | ガラス |
| | | セメント・土石 |
| | | 窯業 |
| 8 | 鉄鋼 | 鉄鋼 |
| 9 | 非鉄金属 | 非鉄金属 |
| 10 | 金属製品 | 金属製品 |
| 11 | 機械器具 | 産業機械（物流用機器を除く） |
| | | 一般機器 |
| 12 | 電気機械器具 | 家電 |
| | | 産業電機 |
| | | 情報・通信機器 |
| | | 電子部品・半導体 |
| | | その他の電気機器 |
| 13 | 輸送用機械器具 | 造船 |
| | | 鉄道車輛 |
| | | 自動車 |
| | | 自動車部品 |
| | | 航空機 |
| | | その他の輸送用機器 |
| 14 | 精密機械器具 | 理化学・計測機械 |
| | | 光学機器 |
| | | 時計 |
| | | その他の関連機器・システム |
| 15 | 物流用機械器具 | 保管機器・システム |
| | | 仕分け機器・システム |
| | | 荷役機器・システム |
| | | 包装機器・システム |
| | | その他の関連機器・システム |
| 16 | その他の製造業 | 印刷 |
| | | スポーツ用品・玩具 |
| | | 楽器 |
| | | 文具・事務機器 |
| | | その他の製造業 |

■物流業

| 番号 | 分類 | |
|----|-------|------------|
| 17 | 物流業 | 鉄道 |
| | | 陸上輸送 |
| | | 海運 |
| | | 空運 |
| | | 倉庫 |
| | | 利用運送・物流管理業 |
| 18 | 物流子会社 | 物流子会社 |

■流通業

| 番号 | 分類 | |
|----|-----|------------|
| 19 | 小売業 | 百貨店 |
| | | 量販店 |
| | | コンビニエンスストア |
| | | 通信販売 |
| | | 訪問販売 |
| | | その他の小売業 |
| 20 | 卸売業 | 総合商社 |
| | | 生産財卸売業 |
| | | 消費財卸売業 |
| 21 | 外食業 | 外食業 |

■サービス業

| 番号 | 分類 | |
|----|-------|------------------|
| 22 | サービス | 旅行 |
| | | レンタル・リース |
| | | 法律・会計・特殊事務所 |
| | | 人材派遣 |
| | | 教育 |
| | | その他のサービス業 |
| | | 23 |
| 24 | 金融・保険 | 金融・保険 |
| 25 | 不動産 | 不動産 ビルメンテナンス |
| 26 | 放送・出版 | 放送・出版・広告 |
| 27 | 情報・通信 | 通信事業 |
| | | ソフトウェア 情報サービス |

■その他

| 番号 | 分類 | |
|----|--------|-----------------|
| 28 | 農林・水産 | 農林・水産 |
| 29 | 鉱業 | 鉱業 |
| 30 | 建設 | 総合建設 |
| | | 住宅および住宅関連 |
| | | 設備工事 |
| | | 設計事務所 |
| | | 土木工事 |
| | | その他の建設業 |
| 31 | 調査研究機関 | 調査研究機関・コンサルティング |
| 32 | 官公庁 | 国 |
| | | 地方自治体 |
| 33 | 団体・組合 | 団体・公益法人・特殊法人 |
| 34 | その他 | 上記のいずれにも該当なし |